

財務諸表に対する注記

1 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券：期末日の時価で評価している。

(2) 引当金の計上基準

貸倒引当金：債権の貸倒に備えるため、過去の貸倒実績等を基に計上の要否を検討しているが、当年度まで貸倒の実績がなく、また、当期末の債権について貸倒の可能性は無いと予想されるため、計上していない。

退職手当引当金：職員の当期末自己都合要支給額を計上している。

(3) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
投資有価証券	30,000,000円	—	—	30,000,000円
小計	30,000,000円	—	—	30,000,000円
特定資産				
拠出金資産	25,104,792円	164,678,600円	164,861,338円	24,922,054円
退職手当引当資産	1,488,000円	744,000円	—	2,232,000円
小計	26,592,792円	165,422,600円	164,861,338円	27,154,054円
合計	56,592,792円	165,422,600円	164,861,338円	57,154,054円

3 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

科 目	当期末残高	(うち指定正味 財産からの充当 額)	(うち一般 正味財産 からの充 当額)	(うち負債に 対する額)
基本財産				
投資有価証券	30,000,000円	(30,000,000円)	-	-
小 計	30,000,000円	(30,000,000円)	-	-
特定資産				
拠出金資産	24,922,054円	(24,922,054円)		
退職手当引当資産	2,232,000円	-	-	(2,232,000円)
小 計	27,154,054円	(24,922,054円)	-	(2,232,000円)
合 計	57,154,054円	(54,922,054円)	-	(2,232,000円)

4 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

補助金等の名称	交付者	前期末 残高	当期増加額	当期減少額	当期末 残高	貸借対照表上 の記載区分
血液確保事業等 補助金	厚生労働省	-	406,659,000円	406,659,000円	-	-
医薬品等健康被害 対策事業費補助金	厚生労働省	-	118,817,000円	118,817,000円	-	-
合 計		-	525,476,000円	525,476,000円	-	-

5 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

内 容	金 額
経常収益への振替額	
基本財産運用益	420,000円
拠出金振替額	164,861,338円
合 計	165,281,338円

6 退職給付関係

① 採用している退職給付制度の概要

確定給付型の制度として退職一時金制度を設けている。

② 退職給付債務及びその内訳

退職給付債務	2,232,000円
退職手当引当金	2,232,000円

③ 退職給付費用に関する事項

勤務費用	744,000円
退職手当費用	744,000円

④ 退職給付債務の計算の基礎に関する事項

退職給付債務の計算にあたっては、退職一時金制度に基づく期末自己都合要支給額を基礎として計算している。

7 引当金の明細

引当金の明細は、次のとおりである。

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職手当引当金	1,488,000円	744,000円	-	-	2,232,000円
合計	1,488,000円	744,000円	-	-	2,232,000円

貸借対照表及び損益計算書(正味財産増減計算書)の附属明細書

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

- 1 基本財産及び特定資産の明細
財務諸表に対する注記2に記載している。
- 2 引当金の明細
財務諸表に対する注記7に記載している。